

製品名: PAK2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02399**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.65mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW: 58 kDa; Observed MW: 58 kDa

抗原情報

遺伝子名	PAK2
別名	PAK2; Serine/threonine-protein kinase PAK 2; Gamma-PAK; PAK65; S6/H4 kinase; p21-activated kinase 2; PAK-2; p58
遺伝子 ID	5062
SwissProt ID	Q13177
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

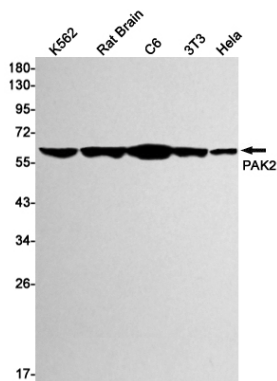
背景

活性化されたキナーゼは様々な標的に作用します。リポソームタンパク質 S6、ヒストン H4、ミエリン塩基性タンパク質をリン酸化します。全長 PAK2 は細胞の生存と増殖を刺激します。このプロセスは、少なくとも部分的には、アポトーシス促進性 BAD のリン酸化と阻害によって媒介されます。

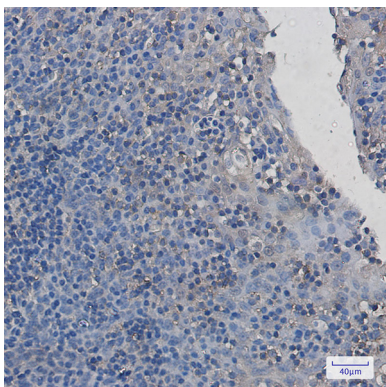
研究分野

細胞生物学

画像データ



PAK2 抗体を使用した、K562、ラット脳、C6、3T3、Hela 溶解物中の PAK2 のウエスタンブロット分析。



PAK2 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。